

個人質問

議会事務局 処理欄	令和 2年11月18日 8時30分 受付
	質問 順位 第 10 番

武豊町議会議長 福本 貴久 殿

武豊町議会議員 櫻井 雅美

一般質問の通告について

令和2年第4回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1. 男性の育児休業取得について	<p>【趣旨説明】 男性の育児休業取得の促進については、「日本再興戦略2016」にも盛り込まれ、男性の育児休業取得率を2020年までに13%とする目標が掲げられています。また、産後女性の死因で最も多い産後うつ予防や回復、児童虐待防止には男性の育児休業が「強力な選択肢になる」といわれています。しかし、率先して取り組むべき武豊町の男性職員は過去5年間に対象者39名に対して、取得者はわずか3名、令和元年度、2年度の取得者は一人もいません。 そこで以下質問します。</p> <p>【質問事項】 ①武豊町の特定事業主行動計画では「令和2年度までに、育児休業を取得した男性職員を延べ1名以上にする。」とありますが、現時点では目標を達成できていません。何が原因だと思われますか。 ②武豊町の特定事業主行動計画では「管理職を対象にした意識改革や職場マネジメントについて研修を行うなど、男性が育児休業を取得しやすい環境を整える。」とありますが、どのような効果がありましたか。 ③育児休業を取得された男性職員3名以外は、取得を希望されなかったという認識でよろしいですか。 ④「育児支援制度ハンドブック」には最新の情報がもれなく記載されていますか。また、管理職は全員この内容を理解していますか。 ⑤男性の育児休業取得率の目標値は「2025年までに30%」となります。次期「特定事業主行動計画」の目標と目標達成のための計画はどのようになりますか。</p>
2. 児童虐待防止について	<p>【趣旨説明】 武豊町で起きたネグレクトによる児童虐待死亡事件から20年が経ちましたが、現在はこの事件を知らない職員も増え、本町全体として児童虐待について緊張・危機感がとても薄くなったように感じます。しかし現状は対応件数は増え続け、一触即発の状態、とても安心できる状況ではありません。児童虐待防止には地域住民の協力が重要であり、特に地域の子育て経験者が知識を得ることは早期発見に大きな力を発揮します。そこで以下質問します。</p> <p>【質問事項】 ①本町で子育ての相談窓口となっている施設等について、職員の対応についての満足度はどのように調査していますか。また、その結果どのように改善されましたか。 ②相談窓口となる施設等にはプライバシーが守られるスペースが設けられ、安心して相談ができる工夫がされていますか。 ③本町では子育て支援者の養成や子育て支援団体・支援者との情報交換の場を設けるなど、地域住民との協働による子育て支援活動を積極的に行いませんがなぜですか。 ④市区町村子ども家庭総合支援拠点について、子育て世代包括支援センターよりもより専門性の高い事業内容となりますが、虐待対応専門員の配置についてはどのように考えていますか。</p>

個人質問

議会事務局 処理欄	令和 2年11月18日 8時30分 受付
	質問順位 第10番

武豊町議会議長 福本 貴久 殿

武豊町議会議員 櫻井 雅美

一般質問の通告について

令和2年第4回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
3. コミュニティ・スクール推進事業について	<p>【趣旨説明】 コミュニティ・スクール(学校運営協議会)は、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みです。事業を導入している学校では、子ども食堂、不登校児への付き添い、防犯・防災活動、学習支援等、多くの地域住民が児童生徒のために自主的に活動をしています。また、学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、「地域とともにある学校づくり」や「課題解決に向けた取組」を効果的に進めることができます。 そこで以下質問します。</p> <p>【質問事項】 ①少子化が進み教職員の人数が少なくなっていく地域ほど必要性の高い事業と考えますが、本町の動向から事業の必要性について調査・研究は行われていますか。 ②設置は教育委員会の努力義務となっていますが、本町では設置についてどのように考えていますか。</p>